



Good News for Japan

とぎのこえ

平成二十四年二月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

神の時を知る

勝地 次郎

「時」を知ること、これは人間であることの特徴の一つであると言われています。確かに、大人になれば誰もが、^{ツギ}のう、きょう、あす^{ツギ}という時の流れを認識することができません。しかし、流れ行く時に秘められている意味を知ることが容易ではありません。

戦国時代に生きた武将の一人である明智光秀は知性豊かな人でしたが、主君である織田信長に弓引き、本能寺の変を起こした人物として知られています。「敵は本能寺にあり」と檄を飛ばしたことは有名ですが、兵を起す前に催された連歌会で、その思いをこう詠んだと言われています。

ときは今

天が下しる

五月哉

「時」は「土岐」に通じており、「土岐家出身である光秀が、まさに今天下を支配する五月である」という意味がそこにあると言われていますが、今や決起の時が来たという思いを歌に託したのでしょう。しかし、光秀が思い描いた「時」は、三日天下の時となり、彼は悲運の武将として生涯を閉じたのでした。

聖書には

「何事にも時があり

天の下の出来事にはすべて定められた時がある」

(コヘレトの言葉3章1節)

と記されていますが、この「定められた時」とは、神が定められた時であり、この「時」を得ることこそ、人生が勝利に導かれる鍵となるのです。イエス・キリ

ストはその生涯の中で「わたしの時はまだ来ていません」と度々言われました。神の定められた時をご自分の時として捕らえ、その時を目指して歩んでいかれたのです。十字架の死を予見されたイエスは、ゲツセマネの園で父なる神の御心を求めて祈られた後、弟子たちにこう言われました。

「時が来た。人の子は罪人たちの手に引き渡される。立て、行こう。」(マルコによる福音書14章41、42節)

「立て、行こう！」

ここには「神の時」を得て行動された堂々たるイエスの姿を見ることができるとです。イエスの言われた「わたしの時」とは、イエスが十字架で「神の栄光を現される時」を意味していましたが、十字架上で息を引き取られた後、三日目に復活されたイエスは、これを信じるすべての人に永遠の命を与えるという神の約束を確かに成就されたのです。

この十字架と復活の福音を宣教するために生涯を献

げた伝道者パウロは、イエス・キリストによって人生が新たにされる喜びをこう表現しています。

「今や、恵みの時、今こそ、救いの日。」(コリントの信徒への手紙二 6章2節)

パウロは、イエスの弟子となる前には、イエスを信じる者を激しく迫害した人でしたが、復活されたイエスに出会い回心した日は、彼にとっても、「神の定められた恵みの時」、救いの日であったことでしょう。

神はあなたの人生にも「時」を備えておられるのです。あなたの人生が失望から希望へ、悲しみから喜びへ、暗闇から光へ、死から命へ変えられていく、あなたの「時」を。

流れ行く時の中に、神が備えられた「かけがえのない時」を見いだす人は幸いです。その人は、パウロをはじめイエスと出会った喜びを知る多くの人々と共に、こう言うことができるでしょう。

「今や、恵みの時、今こそ、救いの日！」

(救世軍士官(伝道者)書記長宣

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

神、備え給う

〔信仰の体験談〕

黒阪 璋



した。私はその学校を卒業した翌年、母の勧めで結婚をしたのですが、妻の両親一家とY先生一家が、あの遠く離れた満州の大連の町で知り合いだったのです。妻の両親は救世軍の士官(伝道者)で、Y先生のご両親は牧師。敗戦まで同じ大連の町で働きを進めていました。「神、備えたまう」の思いを強くいたしました。

私は現在九十二歳を迎え、呉市にある社会福祉施設ケアハウス「呉ベタニヤ・ホーム」に住んでいます。一緒に入居した妻は、六年前に天に召されました。振り返って、過ぎし日を回想する毎日ですが、しみじみ思うことは、見えざる神がおられ、私たち家族が歩んできた道の道標となつてくださったのだなあ、とただ感謝あるのみです。

母の模範

私は、八十年前に母に連れられて初めて教会(救世軍)の門をくぐりました。そして日曜学校に通う生活となりました。

私の信仰は母の模範に負うところが多く、それは今日も土台となり、柱となっているように思います。ものごころつく頃から



幼少期に母と

「人は神によつて造り変えられなければ、真の平和は得られない」と、母から口癖のように聞かされてきましたので、子ども心に、「どんなに良い学校に進学しても、どんな有名な企業に就職できても、救われなければ真の平和は得られない」と深刻に考えていました。成長するにつれ次第にその心配が深くなり、いても立ってもいられなくなり、とうとう十三歳の時、夜中に家を抜け出して裏山に行き、真つ暗な中で、生まれて初めて、神に向かつて真剣に祈りました。しばらく祈っているうちに、

「立つて行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」(ルカによる福音書17章19節 口語訳聖書)

「だれでも新しく生れ

戦後の新生活

こうして、少年の時イエス・キリストの救いを受けましたが、喜びの日々も束の間、あの戦争が起こりました。たとえ、国の戦いという大義名分があつたとはいへ、私は神から逃げるように兵役に服したことを、生涯の悔やみとしています。昭和二十(一九四五)年、日本は無条件降伏の下に敗戦を迎えました。私は命永らえ復員して、夢にまで見

神様の備え

その後、私自身と家族の将来を考え、呉を離れ上京しました。とはいへ、あてがあるわけではなく、東京にある私の実家に家族で居候し、定職が見つかるまで臨時の仕事をして、不安な日を過ごしていました。そんなある日、またもや

不思議なことが起こりました。めつたに文通すること

もなかった妻の母方の叔父と、あの英語通訳養成学校で出会ったY先生の連名で、分厚い封書が届いたのです。急ぎ中を読んで、天にも昇る思いになりました。思わず、「神、備え給う」と心の中で叫びました。その書面の内容というのが、北海道札幌にある日女学校の中学・高校の教師として来ないか、というものだったからです。

その女学校は、北海道最古のミッション・スクールで、叔父はその中等部の部長を務め、Y先生は短大の学長に就任しておられました。ちょうどその時期、中学・高校の英語教師が必要になって、私のことを思い出したY先生が推薦してくださつたとのことでした。なにしろY先生の保証つきでしたから、即、面接を受けて採用となりました。

神様は私の祈りを聞き、仕事と家族の生活をひつくるめて備えてくださったのです。「神、備え給う」との確信を強くするとともに、へあ

あ、私は神様に



3世代家族で過ごした札幌(後列左から2番目)

生かされている」と思わせられました。

共に歩まれる神様

ただ、それまで、私に学校の教師になろうという発想は全くありませんでした。しかし、未知の世界の様々な困難を考えるいとまもなく、教育の世界に飛び込みました。それから三十年、教師としての毎日は、ただ無我夢中の連続でした。この時代を振り返ると、いかに家庭をつくり、子育てをし、生徒の教育をし、クリスチャンとして責任を果たすか、という、すべてにおける「訓練と挑戦の時代」ということができます。

教職生活の責任をどうにか果たすことができた力の源泉は、第一に、私がクリスチャンであつたこと、第二に、救世軍で養われる信仰(教理と実践)が、学校生活という現実生きて働くものであつたこと、と信じ

ております。

「足あと」という作者不詳の詩があります。こんな内容です。

「ある人が、砂の上の足あとを見ていた。それはその人の人生に神様が共に歩いてくださったことを示す二人分の足あと。しかし、ある所では一人分の足あとしかなかった。そこは、その人がつらく悲しい時だった。

「神様、わたしが一番あなたを必要としていた時、どうして私と一緒にいてくださらなかったのですか。」

すると神様は答えた。「その時、私はあなたを背負って歩いてきたのだよ。」

私の教師時代にも、神様お一人だけの足あとの時が何度あつたことか、と思われされます。私の弱さ、欠け目をすべてご存じの神様が私を背負い、運んでくださいました。

もう一つの備えられた人生

定年後は、札幌を離れ、妻と二人、東京に移りました。世間では「最後の人生」と申しますが、私たちがとつて、それからの二十

なければ、神の国を見ることはできない」(ヨハネによる福音書3章3節 口語訳聖書)

を口にする意味がわかるようになりました。この信仰が、今日まで私を曲がりなりに神を離れることなく歩かせてくれたのだ、と確信しています。

幾日か経つたある日、茫然と街角に立つ私の前に、思いがけなく大学時代の同期生O君が現れたのです。一瞬目を疑いましたが、先方も気がつき、踊るように再会を喜び合いました。彼は私を、彼が通っている英語通訳養成学校に来るように誘ってくれました。渡りに船、と早速その学校に通うようになりました。偶然とはいへ、何という良いタイミングだと、前途が明るくなる思いでした。

更には、この学校で次に出会った人物こそ、私の後の人生を決定づけ、道を開き導いてくださったY先生で

聖書の言葉

主(神)は人の一歩一歩を定め御旨にかなう道を備えてくださる。 詩編37編23節

恐れることはない。わたしはあなたと共にいる神。 たじろぐな、わたしはあなたの神。 勢いを与えてあなたを助け

わたしの救いの右の手であなたを支える。 イザヤ書41章10節

……わたしはあなたたちの老いる日まで、白髪になるまで、背負って行く。 わたしはあなたたちを造った。 わたしが担い、背負い、救い出す。 イザヤ書46章4節



今は亡き妻と共に

クリトリ
ご住所
ご氏名
私の近くの救世軍を紹介してください。
クリスト教についてもつと知りたいたいです。
「ときのことえ」の購読を申し込みます。

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブリス 大將 リンダ・ボンド (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 吉田 眞 (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp> E-mail: webmaster@salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

救世軍の救援・支援活動

〈フィリピン〉 2011年12月17日、ミンダナオ島を突然洪水が襲いました。夜中に起こったため、就寝中の人が多く、カガヤン・デ・オロやイリガンの町では死者1000人以上、また、10万人以上の人々が避難を余儀なくされています。現地の救世軍に属する信徒たちは、自らも被災者でありながら、食べ物や寝具などを避難している人々に届けています。5000世帯の支援をすることが計画されました。

フィリピンの救世軍とロンドンにある国際緊急支援部から派遣されたスタッフが現地に入り、調査を進め、更なる支援計画を進める予定です。

〈ニュージーランド〉 2011年12月23日、クライストチャーチ周辺でマグニチュード5.8の地震が起こりました。大きな人的被害は出なかったものの、以前の地震で破壊された建物が更に崩れ、液状化現象も起こっています。翌24日までにマグニチュード2.8～6.0の余震が67回も起きました。クライストチャーチの中心街は、大聖堂はじめ建物がほとんど崩れ落ちています。

クライストチャーチ周辺では、2010年9月に最初の地震が起き、2011年2月に起きた地震では、日本人を含む182人の命が奪われました。

救世軍災害支援チームは、最初の地震以来おこなってきたカウンセリングや物資の支援を継続するとともに、今回、最も被害が大きかった4つの地域に、人材を派遣し、子どもたちへのおもちゃを含む緊急支援物資を送りました。



〈日本〉 東日本大震災の被災地では、本格的な冬の寒さと厳しい現実の中で、年の瀬、そして新年を迎えました。そんな中、救世軍では、今年の12月、いくつかの救援チームがクリスマスの贈り物を届け、給食活動や集会をしました。12月6日～7日に、陸前高田市の11個所の仮設住宅、公民館や自治会館、雇用促進住宅を訪問し、調味料セット(合計389)や子ども用クリスマスブーツ菓子(200個)などを提供、矢作小学校では、児童(77人)に手袋などを贈りました。17日には、陸前高田市障がい者支援施設と大船渡市の仮設住宅で、クリスマス集会をもち、また給食活動(スパゲッティ300食)をおこないました。



仮設住宅でクリスマスカローンを合唱

また、31日大晦日には、大船渡市の永沢仮設住宅に、おせち料理とお餅を届け、年越しそばを提供しました。救援チームのメンバーは、地元のボランティアの方々と共に年越しをし、被災地の復興のための祈りを献げました。



海外からは、引き続き多額の支援資金提供が続いており、大小様々な支援に用いられています。昨年12月中には、宮城県内11の市・町で、支援の行き届いていない民間借り上げ住宅に居住している被災世帯に対して、暖房器具(約6000台)を香港からの資金で届けました。1月中にはカナダからの申し出で、陸前高田市の保育所の子どもたちへ、タオルケット(120枚)が贈られ、同じ陸前高田市の障がい者支援施設には、チェコから送られた資金によって、作業用の軽トラックが提供されました。また、アメリカからの資金によって、南三陸町や女川町で開設予定の仮設店舗街建設の支援を引き続きおこなっていきます。

仮設住宅におせち料理と年越しそばを届けた

昨年末の社会鍋へのご協力、ありがとうございました。

2011年12月10日～31日まで、全国の主要都市でおこないました。東京地区では、銀座、渋谷、新宿、上野、池袋などでおこなわれた社会鍋募金に、総額15,430,366円(2011年12月31日現在)が寄せられました。全国の募金結果は追って報告いたします。

皆様からのご献金は、東日本大震災被災地での支援活動をはじめ、国内外の緊急災害支援活動や街頭生活者支援活動と、保護家庭、母子家庭、独居老人、作業所などへの慰問や支援に役立たせていただいています。



で神の愛を伝えることはできない、と物心両面からの救いを目指しました。貧しい人々、悲惨な状況に置かれている女性や子ども、アルコールのために生活が破たんした人、災



創立者のウィリアム・ブリスは、その人の一番必要としているものを提供しない

救世軍とは The Salvation Army
プロテスタントの国際的なキリスト教会で、一八六五年に創立されました。本部はイギリスのロンドンにあり、現在、世界百二十四の国と地域で活動しています。
その特徴は、人々の必要に応える働きをおこないながら、神の愛を伝えていくことと、軍隊流の組織をとっていることです。

害などの被害者……その時々の人々の必要に応え、問題を解決するために、ブリスは様々な働きを起こしました。それらはどれも緊急を要するものであることから、迅速に実行に移せる軍隊流の組織をとったのです。
昨年の東日本大震災の時も、発生直後に被災地に駆けつけ、食料、日用品など当座必要な物を届けました。以来、現地の関係機関と連絡をとり、調査を重ねながら、救援及び復興支援活動を続けています。



(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価
発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部五〇円(〒六〇〇円) 十五日号一部六〇円(〒六〇〇円) クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(〒六八〇円) 一年分二七〇円(送料七二八円) 振替・〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 吉田 眞 編集人 齋藤 恵子 〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番 電話 東京(03)三三七〇八八一 発行所 救世軍本営 印刷所 図書印刷株式会社

(この欄に通信文を書くとき第三種扱いになりません)